

<司令官スティーブン・モーリス大佐の2021年4月25日(日)のメッセージ>

こんにちは この動画をみてくださってありがとうございます。

わたしはスティーブン・モーリス大佐です。わたしと妻のウェンディは、この御国建設のミニストリーにみなさんと共に関わることを感謝します。

日本の軍国指導者としての任命をいただきました。早くみなさんにお会いできることを願っています。

現在、コロナ禍のため、日本の国境が閉ざされています。今、いろいろな方法を模索して、入国できる道を探っています。早く日本での主の戦いに加わることができるように。

待機中の今は、ここアトランタにある士官学校に滞在しています。必要な書類が整って、国境が開かれるまでの間です。

ぜひみなさんのお祈りをお願いします。ビデオを通してだけでなく、直接お会いすることができるように。そんな中でも、私たちの心はみなさんと共にあります。できるだけ早く日本に行きたいと思っています。一日も早く、道が開かれて、みなさんに加わることができるよう、お祈りいただければ幸いです。

このメッセージをお送りするにあたって、まず、メイナード大佐夫妻のリーダーシップに感謝します。電話やオンラインのやりとりで、良い引き継ぎをさせていただきました。特にお二人の霊的なリーダーシップに感謝しています。その重要さをわたしも覚えます。神様が共にいてくださり、今日もみ言葉を通して、強め、励ましてくださることを期待します。

自分の霊的な歩みの中で、大事にしていることがあります。それは信仰者としての感動を忘れないということです。クリスマスの前にわくわくすることはよくありますね。キリストの誕生を覚えて、喜びを抱く。でもクリスマスが終わり、普段の生活に戻ると、その日ごとに主がわたしたちの生活に与えてくださる恵みを忘れてしまうことがあります。イースターもそうですね。ですので、特にこの数年は意識して、イースターサンデーの礼拝が終わった後も、イースターの恵みから学ぼうと心がけています。

そういうわけで今日は、イースターのところからお話したいと思います。そこからみ言葉を見ていきましょう。

聖書をお持ちでしょうか。マタイ28章16節から章の終わりまでお読みします。

16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。 17 そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。 18 イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。 19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、 20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと

共にいる。」

神様が、歴史を書き留めるよう人々に託して下さったことを感謝します。このおかげで、イエス様がそばにいた人たちに、何を、どのように語られたかを、わたしたちは知ることができます。イースターがありました。キリストは天に昇られました。この方が生ける神であることをわたしたちは知っています。アーメン。この方がわたしたち一人一人を変えてくださる方。今も生きて、わたしたちに永遠の命を与えてくださる方だからです。

さて、ここに出てくる「弟子にきなさい」という言葉が気にかかりました。

最近学んだのですが、原語であるギリシャ語では「弟子を作る」とは書いていないのだそうです。この言葉自体は動詞なので、「弟子にするという過程」が命じられているということです。ですので今日は、誰かを弟子にするということの意味を考えてみたいのです。

そしてお聞きしたいのです。みなさんには弟子訓練をしている人はいますか？それがクリスチャン文化の大きな要素です。自分自身が弟子訓練を受け、そして自分が弟子訓練をしている人がいること。クリスチャンになったばかりの時は、これは期待と恐れが入り混じることかもしれません。それぞれの関係性の中では、お互いの考え方や経験が違う場合もあるでしょう。

このことについて、イエス様はすでに言葉をかけてくれています。まず力をもっておられるのはイエス様であること。弟子を作るために必要な力は、イエス様が与えてくださるのです。イエス様は言われました。「この3年間、わたしがあなたたちにしたのと同じように、他の人に行きなさい。」教えや励まし、生活に根ざしたことを、あなたの周りにいる人たちに伝えなさいということです。この人生は、始めと終わりにくられるのではなく、そこには永遠の命があるということです。神様の臨在に憩うことができる特権が与えられているということ。

イエス様がそのような力を弟子たちに与えられたのは、特別な理由がありました。行って、弟子訓練をするためです。そのために彼らの心と思いを整え、復活した後に彼らの前に戻ってこられました。ほら、わたしはあなたと共にいるよ、と。わたしは生きているから、行って、すべての人に、あなたが経験したことを伝えなさいと。イエス様がそのような感化を弟子たちに与えたからこそ、わたしたちは今こうしてクリスチャンとされているのです。12人ほどの弟子たちがこのような感化を受けたことで、歴史が変えられました。自分たちにできるだろうかと恐れや不安があったでしょうか。きっとあったと思うのです。でも神様の力が、実行できるよう助けてくださいました。

最後に、イエス様は言われました。気をつけなさい。あなたは、わたしの力によって、わたしの定めた時に、それを行うことができるのだと。弟子たちは励まされたことでしょう。神様は、世の終わりまでいつも共にいてくださるという安心感。みなさんが、日々の生活でミニストリーをされる時、どうか救世軍がみなさんを支えようと祈っていることを覚えてください。みなさんが

メッセージを伝えようと関わる方達は、神様がはるか前からそれを知り、その方達の心を備えてくださっています。神様はみなさんの心も整え、メッセージが相手の心に届くよう、助けてくださいます。神様は、その方達の物事の捉え方を変える力をお持ちです。クリスマスとイースターは単にお祝いする行事ではなく、わたしたちが今生かされていることの理由そのものです。わたしたちが人々の生活に関わり、神様の意図を知っていただくことの理由そのものなのです。

どうか、みなさんが、神様が与えておられる使命を果たすことができますように。それは神様の戦いを戦うということです。

神様は決して離れることなく、いつも共にいて守ってくださいます。

みなさんの歩みと、その経験を、神様が豊かに祝福してくださいますように。

祈りましょう。

祈り

父なる神様、あなたがわたしたちの人生に共にいてくださることを感謝します。

今日、あなたが与えられた大宣教命令を、もう一度思い起こすことができありがとうございます。

どうか、言うべきことを言い、するべきことをする力を与え、イエス様の救いに多くの人が導かれるよう助けてください。

救いはあなたの御業です。けれどもわたしたちを用いてくださることを感謝します。あなたの御国と御業のすばらしさを示してくださることを、心から感謝します。

御名によって祈ります。アーメン。

神様の祝福を祈ります。

お会いできる日を楽しみにしています。